

●適用範囲：小学生～高齢者

●採点：自己採点

特徴：

色名語とそれが書かれたインクの色が異なる色名語（たとえば「**みどり**」）が提示され、そのインクの色（■）を呼称することが求められると、言葉（みどり）からの妨害を受け、うまく反応できないことが知られている。これはストループ効果と呼ばれており古くから知られている。一方、言葉が表す色（■）と色パッチを照合することが求められても、色名語のインクの色（■）からの妨害を受ける。これは逆ストループ効果と呼ばれている。本テストはこれら二つの効果とも測定できる初めての検査である。

測定されるもの：**1. 選択的注意の測定**

従来からストループ効果には選択的注意が反映されるものであるとされており、本検査でも測定が可能である。特に、逆ストループ効果も同時に測定可能であることから、選択的注意を多面的に測定できる。

2. 言語処理と色処理の相互作用の測定

本検査では、ひらがなの言語処理と色処理が求められることから、日本語の習得過程が反映される。日本語が母国語でない外国人の日本語の習得レベルがストループ効果に反映される。

用途：**研究目的**

- 注意力の個人差
- 注意力の生涯発達的変化
- 言語能力の発達

教育目的

- 手軽にできる心理学実験の教材として
- 認知機能の低下防止の材料として（すでに他の研究者によってストループ効果のこの用途が紹介されている。）
- 発達障害特にAD/HDの注意力測定

新ストループ検査 I

著者：箱田裕司

逆ストループ統制条件、逆ストループ条件、ストループ統制条件、ストループ条件がそれぞれ 60 試行からなる A4 サイズのストループ検査です。1 頁の実施時間が 40 秒のため、子どもでも老人でもそれほど疲労を感じることなく検査できます。

新ストループ検査 I

著者：箱田 裕司

この検査では、まず練習 1 を行ったあと、次に、本試行 1 を行なうというように、必ず練習、本試行、練習、本試行というように進めて行ないます。

所要時間は練習 1 秒、本試行 40 秒です。できるだけ、速く、正確にやってください。途中で誤りに気づいたら、すぐによくこれを修正して、続けてください。なお、筆記用具は黒のサインペン（あるいはボールペン）を使用してください。

では、下に、今日の日付、名前、年齢、男女の別を書いてください。書き終わったら、次のページを開けてください。

検査日 年 月 日

氏名 年齢 才 男・女

この欄には記入しないでください。

選択数 (P)	1	2	3	4	11	12
正答数 (C)						
誤答数 (E)						

新ストループ検査 I (A4) (PDF) (本検査用紙は複数枚あります)
作成者 箱田裕司 (筑波大学大学院人間工学研究科博士前期課程修了)
発行元 TOKYO PHYSICAL
株式会社トーヨーフィジカル (鹿児島市平尾3-7-21 地図)
TEL 092-522-2922 (直通) FAX 092-522-2933
URL <http://www.toyophysical.co.jp>

- 検査用紙 (A4 版) : 10,800 円 (税別)
6 枚綴り × 30 セット入り
【本試行 4 頁 (1 頁 60 試行)】

新ストループ検査で何が分かるか

—新ストループ検査 I・II 解説書—



箱田裕司・渡辺めぐみ・松本世紀 著

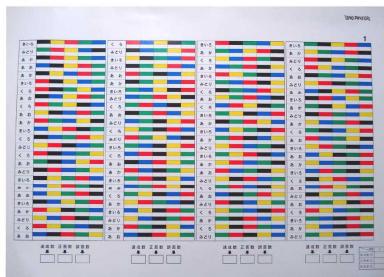
TOKYO PHYSICAL

- 採点盤 (4 枚入り) : 1,440 円 (税別)
- 「新ストループ検査で何が分かるか—新ストループ検査 I・II 解説書—」: 1,800 円 (税別)

新ストループ検査 II

著者：箱田 裕司 ・ 渡辺めぐみ

逆ストループ統制条件、逆ストループ条件、ストループ統制条件、ストループ条件がそれぞれ 100 試行からなる A3 サイズのストループ検査です。取り掛かりのわずかな遅れが正答数に反映され、その後の正答数をもとに計算される干渉率に影響する欠点をより改善するために開発されました。1 頁の実施時間は 1 分間です。



- 検査用紙 (A3 版) : 10,800 円 (税別)
6 枚綴り × 25 セット入り
【本試行 4 頁 (1 頁 100 試行)】

- 英語版検査用紙 : 9,600 円 (税別)
6 枚綴り × 20 セット入り
【本試行 4 頁 (1 頁 100 試行)】



新ストループ検査 II

採点盤



- 採点盤 (8 枚入り) : 2,400 円 (税別)

- 「新ストループ検査で何が分かるか—新ストループ検査 I・II 解説書—」: 1,800 円 (税別)
- 英語版採点盤 (8 枚組) : 2,400 円 (税別)

「新ストループ検査で何が分かるか」

—新ストループ検査 I・II 解説書—

A4 フルカラー版 定価 1,800円（税別）

著者 箱田裕司・渡辺めぐみ・松本亜紀



ストループ効果は認知心理学、感情心理学などの基礎的心理学領域だけでなく、臨床心理学や医学の領域でも広く用いられています。

今日、ストループ効果だけでなく、逆ストループ効果も注目されるようになり、逆ストループ効果を測定することによって、以前は分からなかった現象が発見されるようになり、発達障害や加齢に伴う認知的障害の性質を明らかにするツールの一つになりつつあります。そして、ストループテストが神経心理学検査として医療保険の診療報酬の対象になることによって、医療現場での活用が期待されるようになりました。そこで本書は新ストループ検査について、これまで開発、研究を行ってきた実施方法、得られたデータの解説、これまで適用してきた様々な領域の研究を紹介します。

目次

- 第1章 新ストループ検査 I の開発と基礎的データ
 - (1) 二重符号化理論からの示唆：新ストループ検査(40秒版)の誕生
 - (2) 新ストループ検査 I の実施方法
 - (3) 新ストループ検査 I (40秒版)の生涯発達データ
- 第2章 新ストループ検査 II の開発と基礎的データ
 - (1) 新ストループ検査 II (60秒版)の実施方法
 - (2) ストループ検査 II (60秒版)の生涯発達データ
- 第3章 ストループ・逆ストループ干渉に影響するその他の要因
 - (1) 反応様式
 - (2) 実施順序と反復
 - (3) 発達障害
 - (4) 精神疾患
 - (5) 脳機能
- 引用文献

検査用紙



新ストループ検査 I

- 検査用紙 A4 版：6枚綴り×30セット入り
- 採点盤(4枚入り)

新ストループ検査 II

- 検査用紙 A3 版：6枚綴り×25セット入り
- 採点盤(8枚入り)